

3 学年部会



【研究主題】 人の営みに学び、未来を創る子どもが育つ社会科教育
【研修会主題】 学んだことを社会や生活に生かす学習過程のあり方

【研修会主題に迫るための視点】

<p>視点① 主体的な学びを実現するための、予想と見通しを生かした単元づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの問題意識（問い）を大切に単元を見通す学習問題をつくる 子ども主体の学習を生み出すためには、学びを規定していく「問い」が重要なものになると考える。子どもたちが問いを見出すためには、教師が子どもの生活経験・既習事項（生活科とのつながりを含む）など、実態を踏まえることが、大切である。その上で、子どもたちが引き付けられる社会的事象は何であるか、それを導入でどのように見せるか考える必要がある。そして、子どもたちの問題意識をみとり、単元を見通す学習問題を、子どもたちとともにつくっていききたい。3年部会では、「単元を構想するにあたって、どのように子どもの実態を把握し、それを単元の導入にどう生かしたか」、「単元を見通す学習問題を子どもの問いからどのようにつくったか」を大切にしていきたい。 ・ 子どもの思考に沿った本気の学習問題（社会的事象の意味等に迫る）をつくる 子どもが他者（友だち）とのつながりの中で、社会的事象の意味等に迫るためには、本気の学習問題が子どもたちにとって話し合う価値のあるものであることが重要である。そこで、子どもたちの問題意識をどのようにみとるか、子どもたちの問いをどのように本気の学習問題とするか（単元の既習を生かしているか）考える必要がある。発達段階を考えると、子どもたちが本時につながる問いをもつために、教師がどのような支援を行うかということも考えたい。3年部会では、「本気の学習問題」が、教師の支援がある中で、どのような過程を経て成立したか」を大切にしていきたい。
<p>視点② 社会的事象の意味等に迫るために、協動的な学びを大切に授業づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが活発な話し合い活動を行うために、手だて（支援）の吟味・充実 子どもたちは、本気の学習問題についての話し合い活動という他者（友だち）とのつながりにより、互いに自分の考えを広げたり深めたりしていくと考える。その結果、社会的事象の意味等に迫っていくものと考えられる。授業を活発な話し合い活動とするためには、様々な手だて（支援）が必要である。その手だて（支援）については、「本気の学習問題の言葉や内容」、「資料の吟味・工夫と提示のタイミング」、「子どもの考えの事前把握と意図的指名・問い返しなどの教師の出」、そして「普段からの学級づくり」などが考えられる。何がどのように有効であったのか考えたい。また、本気の学習問題が、その単元における社会的事象の意味等は何であるか十分吟味した上でつくられたものであるかどうかは最も大切なことである。3年部会では、「本気の学習問題」を大切に、話し合い活動により、子どもの考えが広がったり深まったりしているか、社会的事象の意味等に迫っているかを検討していきたい。

【3学年部会で目指す子どもの姿】 学習問題をわくわくしながら追究する姿

【学習内容と学習指導要領の関わり】

1 身近な地域と市の様子	教師の適切な手だて（支援）がある中で、都道府県内における横浜市の位置、市の地形や土地利用、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現する姿。
2 地域に見られる生産や販売の仕事	教師の適切な手だて（支援）がある中で、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の生活との関連を考え、表現する姿。消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現する姿。
3 地域の安全を守る働き	教師の適切な手だて（支援）がある中で、施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現する姿。
4 市の様子の移り変わり	教師の適切な手だて（支援）がある中で、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現する姿。